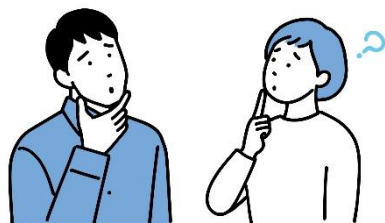


JAC外国人共生講座 _ 異文化理解講座(1)

Q&A集



外国人材の雇入れ教育は、日本語で実施してもよいでしょうか？

雇入れ教育は、外国人材にとっても集中して必要項目を学習する重要な機会であるため、内容理解を第一の目的にする場合は、まずは母国語での集中実施が効率的かつ効果的です。

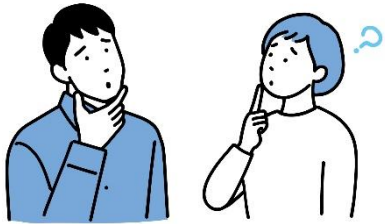
安全用語や会社用語も未習単語が多く、また、日本語を理解することに一生懸命になり、内容理解や記憶に繋がりにくくなります。

一方で、会社で使う日本語を研修する場合は、日本語での直接指導で問題はありません。

目的、内容、そして就労者の日本語力（一番日本語が苦手な方のレベル）を基準に、総合的に判断していただくとよろしいかと存じます。

なお、特定技能制度の事前ガイダンスなど、法令で母語での実施が必須とされる場合もございますので、ご注意ください。





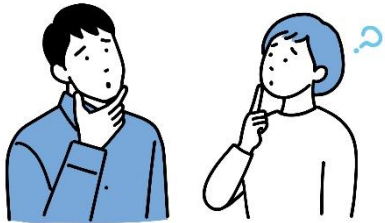
異なる国籍の外国人材を受け入れています、
外国人同士の助け合いがあまりないように見られます。
これは仕方のないことでしょうか？

外国人材の性格によっても異なりますが、例えば同じ国籍の方がおらず、他の国籍のグループが出来ている場合などは、余計仲間に入りづらいといった背景もあるかもしれません。

また、どちらか一方でも日本語が苦手な場合には、コミュニケーションも取りづらいことからお互いに干渉しない状況に陥るケースが見られます。

日本人を仲介者として、双方の日本語力を上達させることも効果的かと存じます。



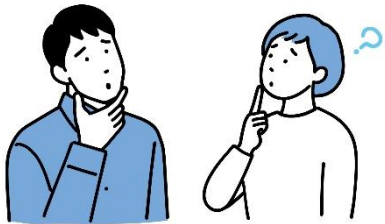


イスラム教徒の外国人材へ、宗教的な質問(ラマダンの過ごし方など)を第三者のインドネシア人通訳が同席する場でヒアリングしてもいいですか。

必要な配慮について、弊社インドネシア人スタッフへもヒアリングいたしました。
インドネシアでは、宗教的な行為の決定権は本人にあると考えるため、それによって他のイスラム教徒に差別や批判をされることは、あまり心配されないとのことでした。

また、ラマダンを行う場合は十分健康や安全に配慮する必要があるため、インドネシアでも建設関係の仕事をされている場合は断食をしない方もいます。
断食の仕方も、置かれている環境や考え方の違いによって、人それぞれ異なります。
業務上必要な範囲や、相手を適切に理解するための質問は、重要なコミュニケーションとして聞いてみていただくのも良いかと存じます。





仕事がオフのときに、どんな楽しい過ごし方をしていますか。
福利厚生参考にもしたいです。

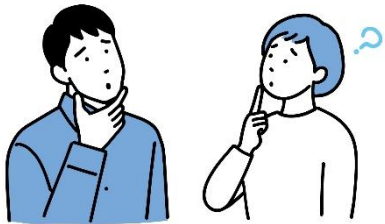
弊社がサポートする特定技能外国人や技能実習生などの外国人材の方々は、
1日は休息（室内でゲームなど）、1日は仲間と母国の食材店で買い出しをされる方が多いです。

出身国にもよりますが、スポーツの盛んな国の方ですと、地域や会社の体育館・ジムなどの利用を
サポートすることで、大変喜ばれることもあります。

また、外国人材や他の日本人の方々と相談しながら、一緒に楽しめるイベントを企画することは、
社内交流の促進や定着にも効果的かと存じます。

（例：BBQ、登山、花見、テーマパークへの旅行など）





日本語での会話の練習や読み上げを行う際、クスクスしたりちょっとふざけてみたり、あまりうまく行っていないように感じます。なぜでしょうか？何かほかにもいいやり方がありますか？

お互い日本語を学習している姿がおかしく感じることもあるようで、弊社の現場でもよく見られる光景です。慣れてきたら真面目に受講されることも多いので、経過をみていただくと良いかもしれません。

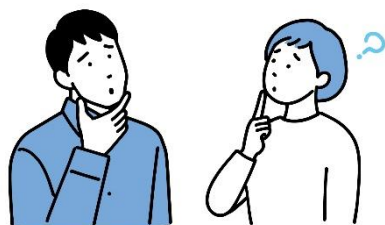
また、講師の方のクラスハンドリング(進行)も大切となります。

講師側は、空気に飲まれず、また抑圧的にもならないよう、よくできたら盛大に褒めるなどモチベーションアップを行っていただくのが効果的です。

勉強の目的や、お給料をもらって勉強していることなどもしっかりお伝えするとよいでしょう。

なお、授業で取り上げていただく文章につきましては、ぜひ外国人のために作られている「日本語」の学習教材をお勧めいたします。





タバコについて質問です。
ダメなのはわかっているけど、かかれて吸っています。
外国人だけのチームだと吸ってしまい注意を受けることもあります。
どう注意したらわかってもらえるでしょうか？

受入れ側にとっては、とても悩ましいテーマですね。

まずは「母語」で、はっきりと禁止している旨をお伝えしていただくのが大切です。

それでも改善がない場合、おそらく何等かのペナルティを作らない限り、改善が難しいこともあるかもしれません。

また、真面目にルールをまもる方と、そうでない方に対して、対応の差別化を取り入れることで
ルールを守る方がメリットがある、ルールを守らないと自分に不利益が被る、という意識づけを工夫されている例も
ございます。

弊社の現場では、喫煙による壁紙全取り換え費用など、具体的な内容とともに、ルールを守らなければ自己負担で
壁紙を交換しなければいけない、などペナルティの詳細を事前にご説明しています。

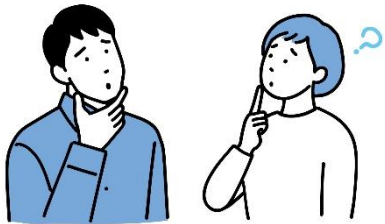
<ご参考>

退去時費用に関する注意喚起(技能実習機構): <https://kanridantai.net/otit-20230322/>

原状回復をめぐるトラブルとガイドライン(国土交通省):

https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk3_000020.html





ベトナム人の騒音問題が目立ちます。

日本に来られたベトナムの方達は、騒音トラブルなどはよくありますか。

日本で暮らす外国人の騒音トラブルはよく取り扱われるテーマで、ベトナムも例外ではありません。
弊社のベトナム人スタッフに、ベトナムの文化的背景をヒアリングしました。

ベトナムでは、家族や友人、同僚と賑やかに過ごすことが普通であり、自宅でカラオケもします。
そのため、多少の音は「日常の一部」として受け入れられる文化があります。

一方で、深夜や就寝時間になると静かにすることは一般的であり、最近のベトナムでは
周囲の人の生活のために静かに過ごすべきだという意識も少しずつ高まってきているとのこと。

とはいえ、昔から集まってにぎやかに過ごす文化が根付いているため、
すぐに習慣を変えるのは容易ではありません。

相手の文化的背景、生活習慣の違いへの理解を示した上で、日本でのルールが異なることを
根気よく説明していただくことが大切かと存じます。



